

## 第3回史跡古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会会議概要

- 日時：平成28年6月6日（月）午後1時30分～
- 会場：新潟市新津美術館レクチャールーム
- 出席委員：8名（小林圭一委員・竹之内委員欠席）
  - ・事務局－文化財センター
  - ・関係課等－秋葉区役所産業振興課

### ○議事について

#### （1）史跡古津八幡山遺跡保存活用計画の策定について

##### a. 前回の検討内容と修正箇所について

###### ①本質的価値について

- ・集落の構成として居住域と墓（方形周溝墓や前方後方形周溝墓）が確認されていることについて触れて欲しい。項目の順番については、立地の次に集落の内容となる方が良い。

###### ②整備・活用の順番について

- ・整備には活用のためだけではなく、保存のために整備する場合もある。活用、整備の順番だと全て活用のために整備するように見える。整備とはどういうものかということと考えると活用の前に整備がくるべきだと思う。
- ・整備というのは遺跡の空間的なものに関わる次元。活用というものはもう少し高次の次元のように思う。史跡指定の大きな柱は保存のためであり活用のためではない。その保存に密接に関わるものは整備であり活用ではない。もう一度吟味して頂きたい。

##### b. 保存管理の方向性について

- ・古墳周濠の滞水の問題について、安全面に配慮しながら滞水時の状態もひとつの活用の材料として使えないものか検討して頂きたい。

##### c. 整備の現状と課題、（方向性）について

- ・アンケートの中に現地で解説して欲しいという要望がある。その対応のひとつとして、ボランティアの育成についてもがんばってもらいたい。専門の人間の話だと堅過ぎて一方向になりがちな面もある。ボランティアだと双方向になる場合が多い。活用の課題かもしれないが是非取り組んでいって頂きたい。

##### d. 活用の現状と課題について（アンケート結果を踏まえて）

- ・アンケート結果から3館（弥生の丘展示館・新津美術館・県立植物園）の連携が重要であることがよく分かる。
- ・アンケートで上の眺望が素晴らしいというのが多くあるので、「今日の眺望はこうですよ、上へ行くと見ることが出来ますよ」というのをいろいろな機器を使って伝えられると良い。
- ・周辺施設である石油の里も含め、活用を総合的に考えていくべき。歴史だけでなく、地学とか植物とか芸術鑑賞とか見どころはたくさんあるので、総合的な面で詰めていく必要があると思う。
- ・個人にしても団体にしても、1時間コース、2時間コース、場合によって半日コースとか1日コースなど、どのくらいの時間があれば周辺のどの施設を巡れるのかなどを検討し、いくつかのモデルケースを提案すると良い。

- ・小・中学生などを育てていくような仕掛け、例えばポスターセッションや調べ学習などをしてもらっても良いのでは。また、韓国の博物館では展示物を写生した絵を展示している。隣に美術館もあるのでそういうこともやってみたらどうか。

- ・周辺で食べる場所が少ないのは少し問題。人が多く来るときだけでも良いので屋台を出すとかできないか。お腹を満たすことで滞在時間が増える。お腹が減ると子供の機嫌が悪くなる。

- ・小・中学校とも交通費が大きな問題となっている。交通費は他館でも困っている共通の問題で、行きたいけど交通費の問題で行けないという場合は多い。

- ・高校生を弥生の丘展示館に連れてくるのも交通費の問題から難しい。市がバスをチャーターしてくれるなど、交通手段をクリアできれば高校でも来ると思う。そうなれば、高校生がまじめに学ぶという、小・中学校とはまた異なるアプローチもできると思う。

#### **e. 整備・活用の基本方針について**

- ・上の中心部分が下から見えると良い。公有地の斜面地区の伐採について早い段階で行えるよう是非検討して欲しい。

- ・1か所でも良いので下に望遠鏡のようなものを設置し、そこをビュースポットとして下から上の広場が望めるようにすると良い。

- ・1年に1回でっぺんで狼煙を上げるイベントなどをしてみたらどうか。新潟市内でも結構色々なところ、遠くからでも見えるのではないかな。

#### **f. 現状変更等の取り扱い方針・基準について**

- ・現状変更取り扱い基準の表の中に今後の確認調査についても入れた方が良い。そうしておけば調査に際し文化庁との協議がスムーズに行くと思う。